

# 普段着のように、歴史的環境を着こなす

富士川一裕（熊本まちなみトラスト事務局長）

## 1、記憶の継承

熊本まちなみトラストの基本コンセプト

熊本まちなみトラストの基本的な理念のひとつに、「記憶の継承」ということがある。

今回、まち歩きを行った新町・古町は、第一に町割、河川、近世の町屋等、400年前の城下町創建のときに造営された、もしくはそれにつながる土木建築的遺構、第二に細川時代に醸成された武家および町人文化をしるす庭園や祭、食、工芸、芸術などにかかわる



唐人町通りから少し離れるが、上通りに近い並木坂周辺に古い建物を再生した飲食店やショップが増えており、若者に人気のスポットになっている

有形・無形の遺産、第三に明治以降の「近代への変革のうねり」をしるす近代洋風建築物および文学、科学技術、娯楽等にかかわる史跡、という3つの時代に大別される歴史的環境となっている。

私たち熊本まちなみトラストは、この新町・古町をはじめ主として熊本市内の歴史的環境を尊重する、という活動を行っている。その「尊重する」という行為をより意識的に解明したものが「記憶の継承」というコンセプトである。



旧第一銀行から目と鼻の先にある住友銀行熊本支店。昭和9年に竣工されて以来、現在まで大切に使いつづけられている。ファサードの柱が美しい

## まちなみトラストの挑戦

建物などの目に見えていたものが姿を消すと、人びとの記憶のなかから建物の像とともに、街や地域社会の物語も消えていく。そこで、街や地域社会の物語の記憶を鮮明に呼び起こして、くれる形あるものを可能な限り保存しよう、さらにそのような保存に向けた意図的な活動により、たとえ建物などの目に見えていたものが姿を消した場合でも、街や地域社会の物語についての人びとの記憶を持続させていこう、というものだ。

## 2、歴史遺産の発掘

熊本まちなみトラストの行動規範

「保存しないのはけしからぬ、と迫る圧力団体にならずに、歴史的な建物の所有者や使い手との対話を続けよう」。これが熊本まちなみトラストの基本的な姿勢であり、そのことを我々は「歴史遺産の発掘」と呼んでいる。

街頭署名、道行く人との対話、マスコミや学会誌への寄稿、他都市のシンポジウムへの参加、アンケート調査、取り壊しを表明した所有者への保存のお願いや提案、くだんの建物に関する使

い手との蘊蓄の傾けあい、相続税対策や維持管理に頭を悩ます建物所有者との対話等々の行動を起こす際に、私たちは呪文のようにこの言葉を繰り返す。

## 3、地域創造

熊本まちなみトラストのゴールイメージ

私たちの活動の先にあるゴールとは何か。自信と誇りにみちた、特色ある地域の創造。少し照れるが、ひとまずそのように言い切ろう。3年前からの苦難の連続から得た「使い方がすべて」という荒っぽい結論から、考えが少し前進したのである。

普段着のように歴史的環境に慣れ親しみながら、生活の一部として歴史的環境を使いこなすことにより、初めて現在や未来の環境に対するよいセンスが身につく。美術家が正確にもものを見る観察眼をもち、料理人がよい舌をもち、音楽家がよい耳をもつように、地域に暮らすふつうの生活者が人格や家庭や学級の崩壊を起こさずに、生活するうえでよいセンスを身につけることが、地域創造力のありふれた原動力になるものと信じる。

## まち歩きガイド